

令和2年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	ICTを活用した体系的な海外研究留学事前・事後教育プログラムの開発と大学院英語教育への接続システムの構築
実施組織 (または対象のカリキュラム)	繊維学部
※連携する他学部・機関がある場合は記入	なし
実施責任者(所属)	平林 公男 (繊維学部国際交流推進室)
取組の目標	<p>本取組は、本学部学生の約7割が修士課程に進学し、研究を主目的とした交流協定校への交換留学希望者が増えてきたことを踏まえて、「英語を的確に理解(聴・読)し、英語で迅速に対応(書・話)できる実践的コミュニケーション力を有する技術者を育成する学部及び大学院(修士・博士)のカリキュラムの構築」を最終目的としている。しかし、これまで高学年次における英語学修のモチベーション維持が大きな課題であった。</p> <p>本申請では、特に学部高学年次生(主に修士課程進学が決定している学生を対象)における主体的学修習慣の定着と、学修意欲の維持方法に関する取り組みであり、協定を結ぶ国際連携校と協力したICTを利用した「海外研究留学事前・事後教育プログラム」の開発が主である。</p>
<p>1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)</p>	<p>計画当初、マンハイム工科大学のオンライン講義に関する情報収集と、それに参加するための事前学修、帰国後の事後学修のカリキュラム化を目指し、先方のMatthias 教授と教育プログラムを協働開発し、他の協定校とも応用ができるように、一般化していく予定であった。しかし、コロナ禍で、双方の大学の実務の対応に追われ、協働カリキュラム開発を行うための項目の洗い出しもできなかった。マンハイム工科大学のオンライン講義も中止の状況が続いている。年度末には、信州大学でFDが実施された「国際共修」という概念にも焦点が当てられ始め、そのための事前・事後学修の重要性も際立ってきている。</p> <p>今年度は、本学GECで実施している信州大学の協定校等が提供するオンライン留学(研修)プログラム(UPM(マレーシア)、FPT(ベトナム)、ノヴォシビルスク大学(ロシア)、ウーロンゴン大学(オーストラリア)、English Camp)についての情報収集と(本稿では省略)、オンラインで海外の大学の専門的講義を受けられ、単位も取得できるような交換留学の仕組みがあるのか等について調査を行った。その結果、コロナ禍以前より、「COIL(Collaborative Online International Learning)型教育」があり、以下のHPのURLが例として良く挙げられ、大変参考となった。</p> <p>▼関西大学(オンライン協働学習「COIL」で越境的国際教育を活性化 グローバル人材の視座をICTツールの活用で獲得)</p> <p>https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/pr/headline/global/2020/08/coil.html</p> <p>https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/jp/resources/KU-COIL.php</p> <p>▼琉球大学(COIL型教育を活用した太平洋島嶼地域の持続的発展に資するグローバルリーダーの育成 -国際共修を取り入れた日本人学生派遣プログラム-)</p> <p>https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2020/_icsFiles/afeldfile/2021/02/05/202102nagoasami_1.pdf</p> <p>▼大阪学院大学(国際化のニューノーマルに向けての中規模大学の取り組み)</p>

https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2020/_icsFiles/afeldfile/2021/02/05/202102osakagakuinu.pdf

▼静岡県立大学(US-COIL のとりくみ -日本語 COIL と国内 COIL-)

https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2020/_icsFiles/afeldfile/2020/10/07/202010sawasakikoichi.pdf

▼麗澤大学(大学の「内なる国際化」が今後必須となる時代へ COIL:オンライン国際協働学習 本格導入)

<https://www.reitaku-u.ac.jp/news/news/1775515/>

▼上智大学(大学の世界展開力強化事業~COIL 型教育を活用した米国等の大学間交流形成支援~)

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/global/global/sekaitenkai/coil.html>

▼南山大学(COIL シンポジウム)

<https://office.nanzan-u.ac.jp/nu-coil/news/oshirase/020641.html>

▼朝日新聞 EduA(コロナ禍で注目 オンラインで海外とつなぐ教育「COIL」とは)

<https://www.asahi.com/edu/article/13789845>

▼JTB によるオンライン海外留学アカデミー

<https://docs.google.com/presentation/d/1S1GBQRGL2JWL3UMprVQ3yD-tKoCCVeQu/edit#slide=id.p2>

▼東北大学(短期オンライン型留学プログラム特設ページ)

<https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/online-special-program/>

▼東北大学(海外体験プログラム 募集情報一覧)

<https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/studyabroad/exploring/program/>

いずれも、短期の語学研修が多い傾向が認められた。本学部で指向している研究留学に関するシステムは数少ない印象を持ち、本取り組みが先進的であり、極めて今後重要となってくることを、改めて実感した次第である。

2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望)	a. 達成できた b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	(評価理由) 情報収集のみで、本来の目的は達成できなかった。
		(今後の展望) 申請書の計画にあるとおり、次年度において、国際共修・国際研究に参加するための事前学修、帰国後の事後学修のカリキュラム化を目指す。